

情報BOX

奉仕

◆宮坂建設工業(帯広市、宮坂寿文社長)が落ち葉清掃奉仕

14日、市内の中央公園で社会貢献活動の一環として行われた。6回目の今年は、社員50人が同公園内と隣接する道道と市道を清掃した。写真。



90リットルのゴミ袋400個分の落ち葉をコンテナで回収した。集めた落ち葉は農事組合法人に運び、堆肥として利用される。

今年から、登寿ホールディングスダスキン事業部の社員10人も参加。同社の高道伸常務は「手際よく進んで良かった。地域の皆さまに貢献したい」と話した。

各企業等の社会貢献

宮坂建設工業がボランティア作業

落ち葉回収し肥料に活用

近隣の公園や道路を美化



集めた落ち葉は、九十歳の袋で四百袋分にもなった。

同社では、「高齢化社会の福祉向上に役立ててもらいたい」と考え、帯広市に毎年三台ずつ車いすを寄贈している。

るほか、帯広市中央公園周辺に事務所を構える企業とともに「ぐるっと親睦会」をつくり、二カ月に一回程度ボランティアで公園を清掃するなど様々な地域貢献活動を行っている。

【帯広発】宮坂建設工業（株）（帯広、宮坂寿文社長）は十四日、地域貢献の一環として、本社近隣の帯広市中央公園や周辺の道路で落ち葉清掃を行った。写真。役員約六十人が参加し、大量に散らばる落ち葉をスコップで回収。拾い

連合社の（株）登寿ホールディングス・ダスキン事業部も初めて活動に参加した。

この日、高道伸常務ら役員など総勢六十人が参加。公園や周辺道路などに大量の落ち葉が散らばっており、スコップなどを使って、手際よく作業を進めた。

回収した落ち葉は九十歳の袋四百袋分にもなった。

これらの落ち葉は、帯広市都市建設部みどりの課の勧めで、農事組合法人帯広有機に搬出し、有機肥料として有効活用される。

高道常務は「拾い集めた落ち葉は堆肥として有効活用してもらうことで、環境にも優しい。来年も、気持ちよく公園を利用していただければ」と述べ、ことし最後の清掃活動を締めくくった。

中央公園周辺で落ち葉拾い集める

宮坂建設工業



参加し、計60人で作業。90歳のビニール袋で400袋になった落ち葉は、市の勧めで市内の農事組合法人帯広有機に運搬した。有機肥料の材料になるといふ。

高道伸常務は「中央公園は会社の近くにあり、防災訓練で使わせてもらっている。これからも清掃活動を続けたい」と話していた。

【帯広】宮坂建設工業（本社・帯広、宮坂寿文社長）は14日、市内中央公園周辺の歩道でカシワなどの落ち葉を拾い集める清掃活動に励んだ。写真。

同社は、帯広市への車いすの寄贈や帯広の森での植樹、市民参加の防災訓練といった地域貢献活動に取り組んでいる。

この日は、関連する登寿ホールディングスのダスキン事業部から12人が